

香蘭社 有田の魅力展 2018

■会場：東武百貨店 池袋店 8F 催事場 (2~3番地)

■会期：6月21日(木)~26日(火)

※営業時間：午前10時~午後8時(最終日は午後5時閉場)

古き良き時代の伝統を礎に、さらに進化し続ける有田焼の正統「香蘭社」の作品を取り揃え、ご紹介いたします。有田を代表する名窯の伝統美をご堪能ください。



①

光琳鶴

① 碗皿 37,800円
 カップ/高さ8cm (930-1HQ)
 ソーサー/径15×高さ2.5cm

② 半酒器 27,000円
 壺/径6.5×高さ4.5cm(容量70cc)
 徳利/高さ12cm(容量270cc)
 木箱入(930-2BP)



背面柄



雲麒麟龍鳳凰・花瓶
 129,600円
 口径10.5×高さ25.5cm、
 木箱入(901-NZK9)



◀万華鏡の中を覗いたイメージの一例です。中に入った色とりどりのガラスやビーズなどのオブジェクトの組合わせで見え方が無限に広がります。

和蘭陀人・万華鏡
 54,000円
 長さ20.5cm、
 木製専用台付
 (584-QAMP)



ルリ金彩月桂樹・茶器揃 43,200円
 湯呑/口径8×高さ4.5cm(容量130cc)、急須/高さ8.5cm(容量350cc)
 木箱入(R822-AQ)

※撮影・印刷の条件により、掲載商品の色、及び寸法が多少実物と異なる場合がございます。※表示価格は「消費税込み」の価格です。

香蘭社について

初代深川栄左衛門が有田で陶磁器の製造をはじめたのが、江戸文化が花開いた元禄の頃。およそ三百三十年前のことです。やがて日本にも近代化の波が訪れ、明治維新の激動期には、これまで有田焼を支えてきた佐賀鍋島藩の一切の保護と支援を失ってしまいます。

そんな中、八代深川栄左衛門は当時の選りすぐりの陶工や絵付師、陶商たちを一つにまとめ、結社をつくりました。それが香蘭社のはじまりです。明治八年の発足以降、世界各国で開かれた万国博で数々の名誉金牌を受賞。海外でその評価を高めるとともに、明治二十九年には、宮内省御用達の栄を授かり今日に及んでいます。

有田色絵磁器の多様な文様を集大成し、時代と共に進化する伝統美は、「香蘭社スタイル」「香蘭社調」と称され、国内外で広く愛されています。



第八代 深川栄左衛門



有田本店